在日朝鮮人				
出版社	頁	項目	記述	コメント
大阪書籍	227	国際社会と日本の役割	市民と自治の連帯を強め、部落差別、障害者や女性、**在日外国人**、アイヌの人々などへの偏見や差別をなくし、あらゆる人々に公正で人権を尊重する社会を築くことが、21世紀を生きるわたしたちに求められています。 ※太字は引用者による。以下、同じ。	「在日外国人」とあるだけで、在日朝鮮人を特筆する記述なし。現行版では「在日韓国・朝鮮人」にたいする差別や偏見の克服に言及(200頁)。2005年度版にはない。
教育出版	203	人権を尊ぶ	人類は、長い歴史を通して、差別をなくし、人権と民主主義の確立を求めてきました。しかし、日本にはまだ差別や偏見が残っており、部落差別の撤廃は、国や地方自治体の責務であるとともに、国民の課題です。またアイヌの人たちや**在日外国人**、外国人労働者への差別や偏見をなくすことも同様です。	現行版では「在日韓国・朝鮮人に対する差別や偏見」の克服に言及している(227頁)。しかし、2005年度版には「在日外国人」とあるだけで、在日朝鮮人を特筆する記述なし。
清水書院	227	日本の課題	この日本固有の人権問題である部落差別解消の取り組みを礎として、実生活に残る性差別をなくすとともに、心身障害者や高齢者、在日外国人などの人々が豊かで安心してくらせるための具体的な施策が求められている。**とくに在日韓国・朝鮮の人々については、これまでの歴史の正しい認識をふまえて、差別や偏見をなくすことが必要である。**	在日朝鮮人について特筆されており、評価できる。ただし、「在日韓国・朝鮮の人々」という表現は「在日韓国・朝鮮人」としたほうがよい。
帝国書院	233	解決すべき21世紀の課題	部落差別、アイヌの人々や**在日コリアン**(→P.225)への差別、男女共同参画社会の実現などは、基本的人権に関わる重大な問題です。	「在日コリアン」という呼称を使用。
帝国書院	225	【囲み　今とのつながり】在日コリアン	日本の植民地政策(→P.209)などにより、第二次世界大戦の終戦時に日本にいた朝鮮人は、およそ200万人ほどといわれてます。大半の人々は、終戦後すぐに朝鮮半島へ帰国しましたが、なかには仕事や家族のことで日本に残留する人も60万人ほどいました。残留した人々は、戦後の法律によって外国人とされ、「日本国籍」がなくなりました。残留した人々は、差別と権利の制限に苦闘しながらも、現在、「在日コリアン」として日本社会でくらすようになりました。	在日朝鮮人について他社にはない、くわしい記述であり、評価できる。
東京書籍	214	民主化の課題	部落差別の撤廃は、国や地方公共団体の責務であり、国民的な課題です。**在日韓国・朝鮮人**やアイヌの人々、外国人労働者などへの偏見や差別をなくすことも、日本人一人ひとりの課題です。	「在日韓国・朝鮮人」という呼称を使用。
日本書籍新社			(該当する項目・記述なし)	
日本文教出版	213	日本の課題	部落差別をはじめ、アイヌ民族や**在日韓国・朝鮮人**に対する差別、あるいは障害者、男女差別の問題もなくなっていない。	「在日韓国・朝鮮人」という呼称を使用。
扶桑社			(該当する項目・記述なし)	戦後補償・在日朝鮮人についての記述が全くない。